

平成 30 年東京都人口動態統計年報 (確定数) のあらまし

1 出生

出生数は 1.7%減少

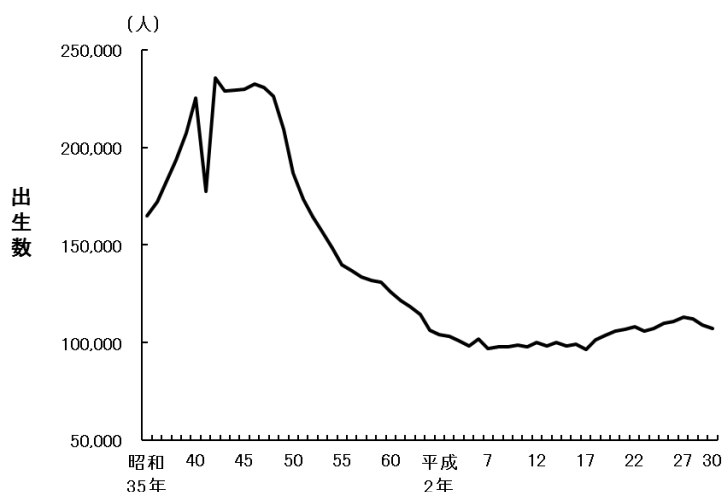
平成 30 年の出生数は 107,150 人で、前年の 108,990 人より 1,840 人 (1.7%) 減少した。人口千人あたりの出生数を表す「出生率」は 8.0 で前年の 8.2 より低下した。

【人口動態統計年報 (以下「年報」という。) 第 1 表】

全国の出生率は 7.4 で、前年の 7.6 より低下した。

【年報第 5 表】

図 1 出生数の年次推移 (東京都)



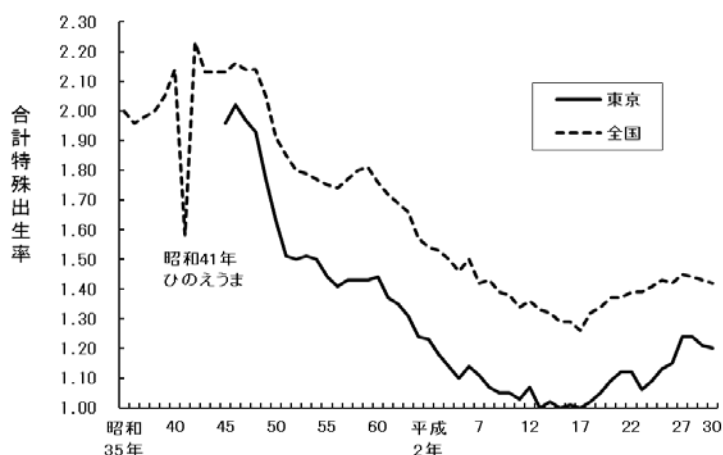
合計特殊出生率は 0.01 ポイント低下

平成 30 年の合計特殊出生率[※]は 1.20 で、前年の 1.21 より 0.01 ポイント低下した。(年報「調査の概要」の「6 利用上の注意」を参照)

【年報第 3 表】

区市町村別にみると、区部での最高は中央区 (1.42)、最低は豊島区 (0.99)、市部での最高は武蔵村山市 (1.55)、最低は青梅市 (1.08)、町村部での最高は檜原村 (3.07)、最低は大島町 (1.21) だった。(別表参照)

図 2 合計特殊出生率の年次推移



注 昭和 44 年までは、東京都の継続した数値はない

※ 合計特殊出生率

15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの。

1 人の女性が仮にその年の年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子供の数に相当する。

なお、算出に用いた出生数の 15 歳及び 49 歳には、それぞれ 14 歳以下、50 歳以上を含んでいる。

15～44 歳及び 50 歳以上の各階級で出生数が減少

出生数を母の年齢（5 歳階級）別にみると、15～44 歳及び 50 歳以上の各階級で前年より減少し、15 歳未満及び 45 歳～49 歳は前年より増加した。

【年報第 6 表】

平成 10 年からは 25～29 歳に代わって、30～34 歳の出生数が最多となり、更に、平成 21 年からは 35～39 歳の出生数が 25～29 歳の出生数を上回っている

また、30 歳代の出生数は 3 年連続減少し、40 歳代の出生数も 2 年連続減少した。一方、全国と東京都の出生割合を比較すると東京都の 30 歳代及び 40 歳代の出生割合が高くなっている。

（表 1）

図 3 母の年齢別出生数の年次推移（東京都）

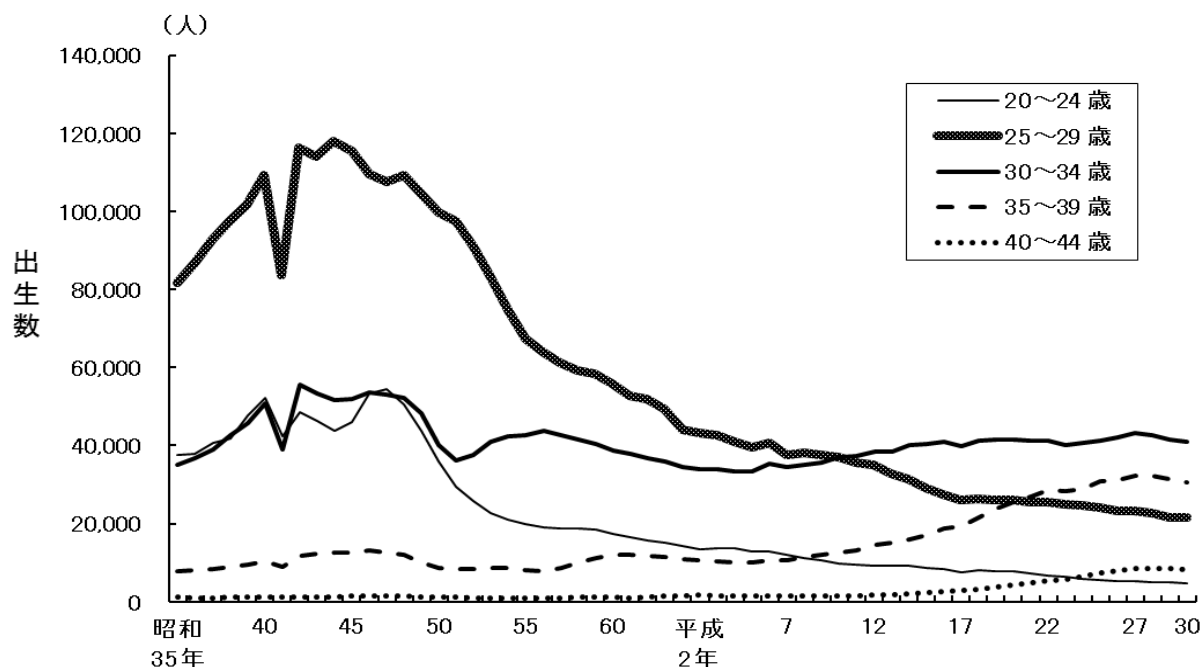


表 1 母の年齢別出生数、総数に対する割合

母の年齢	15 歳未満	15～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～34 歳	35～39 歳	40～44 歳	45～49 歳	50 歳以上
	出 生 数								
全国	37	8,741	77,023	233,754	334,906	211,021	51,258	1,591	68
東京都	4	477	4,855	21,495	41,016	30,717	8,260	309	17
	総数に対する構成割合 (%)								
全国	0.0	1.0	8.4	25.5	36.5	23.0	5.6	0.2	0.0
東京都	0.0	0.4	4.5	20.1	38.3	28.7	7.7	0.3	0.0

全国・・・「平成 30 年(2018)人口動態統計（確定数）の概況」第 4 表－(1)（厚生労働省）

2 死 亡

死亡数は 2.4%増加

平成 30 年の死亡数は 119,253 人で、前年の 116,453 人より 2,800 人 (2.4%) 増加した。人口千人あたりの死亡数を表す「死亡率」は 8.9 で、前年の 8.8 より上昇した。

【年報第 1 表】

全国の死亡率は 11.0 で、東京都の方が低い値となっている。

地域別に死亡率をみると、区部は 8.4 で東京都全体 (8.9) より低くなっている。

一方、市部は 9.0、郡部は 16.3、島部は 14.9 で東京都全体 (8.9) より高くなっている。

【年報第 4 表】

また、乳児死亡数 (生後 1 年未満の死亡) は 183 人で、前年の 169 人より 14 人 (8.3%) 増加した。出生千人あたりの乳児死亡数を表す「乳児死亡率」は 1.7 で、前年の 1.6 より上昇した。新生児死亡数 (生後 4 週未満の死亡) は 71 人で前年の 86 人より 15 人 (17.4%) 減少した。出生千人あたりの新生児死亡数を表す「新生児死亡率」は 0.7 で、前年の 0.8 より低下した。【年報第 1 表】

死因別死亡数は「悪性新生物<腫瘍>」が第一位

死因別にみると、死因順位の第一位は昭和 52 年以降連続で「悪性新生物<腫瘍>」である。「悪性新生物<腫瘍>」による死亡者数は 34,129 人 (28.6%) で、前年の 34,030 人より 99 人 (0.3%) 増加した。

第二位は「心疾患」(15.3%)、第三位は「老衰」(7.9%)、第四位は「脳血管疾患」(7.3%)、第五位は「肺炎」(6.6%) となっている。

【年報第 8 表】【年報第 9 表】

全国も上記の順位は東京都と同じである。【年報第 8 表】

図 4 死亡数の年次推移 (東京都)

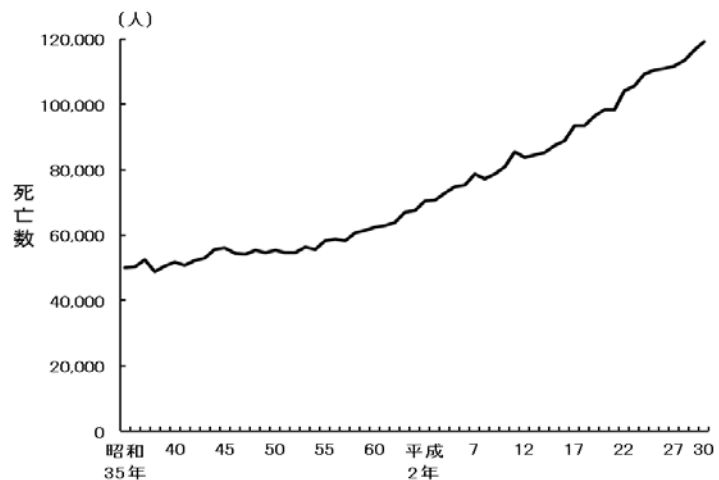
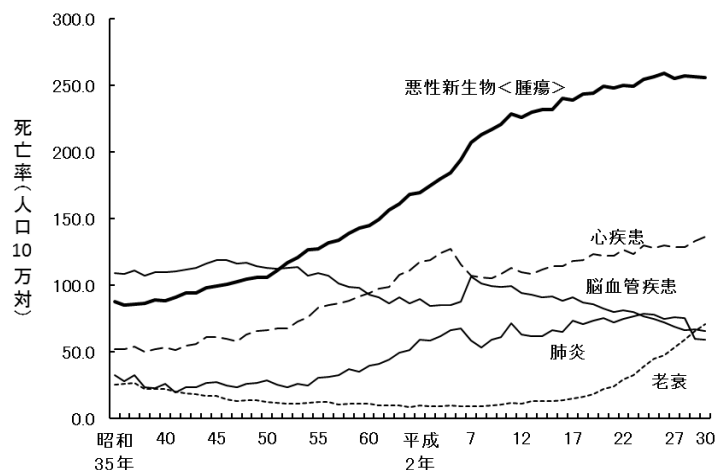


図 5 主要死因別死亡率の年次推移 (東京都)



3 自然増減

自然増減は3年連続の自然減

平成30年の自然増減^{*}数は△12,103人で、3年連続の自然減となった（前年は△7,463人、前々年は△1,451人）。

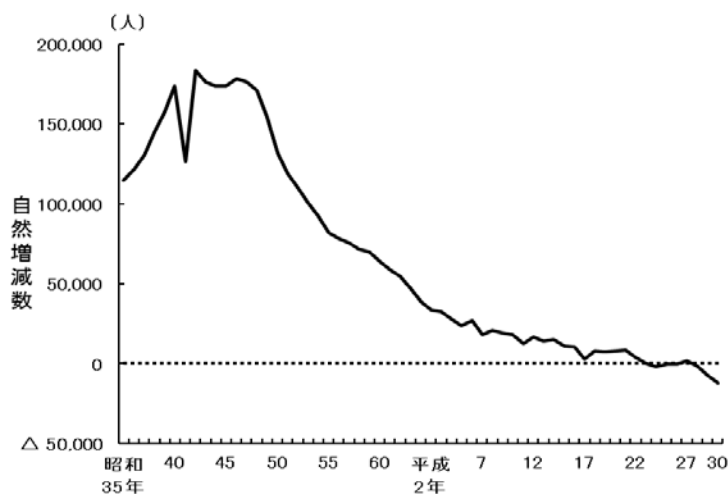
また、人口千人あたりの自然増減数を表す「自然増減率」は△0.9で、前年の△0.6より低下した。

【年報第1表】

※ 自然増減

出生数から死亡数を減じたもの

図6 自然増減数の年次推移（東京都）



4 死産

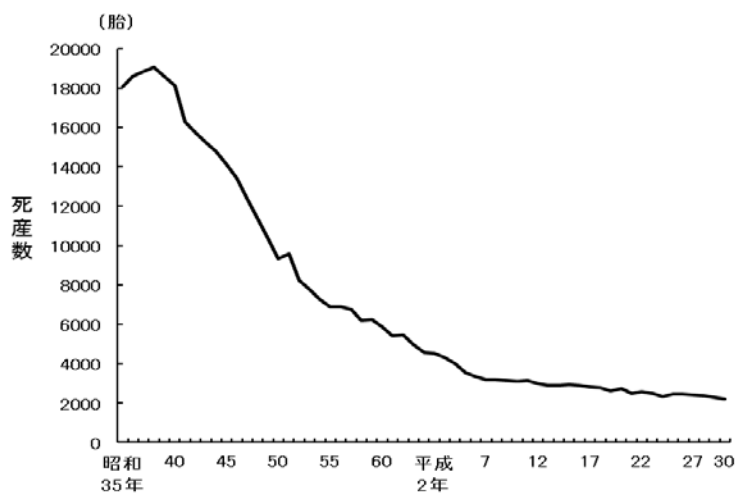
死産数は減少

平成30年の死産数は2,201胎で、前年の2,298胎より97胎（4.2%）減少した。

また、出産千人あたりの死産児数を表す「死産率」は20.1で、前年の20.6より低下した。

【年報第1表】

図7 死産数の年次推移（東京都）



5 婚姻

婚姻件数は減少

平成30年の婚姻件数は82,716組で、前年の84,993組より2,277組(2.7%)減少した。

人口千人あたりの婚姻件数を表す「婚姻率」は6.2で、前年の6.4より低下した。

【年報第1表】

全国の婚姻率は4.7で、東京都の方が高い値となっている。

地域別にみると、区部は6.7で東京都全体(6.2)より高く、市部は4.3、郡部は2.4、島部は4.1で東京都全体(6.2)より低くなっている。

【年報第4表】

東京都の平均初婚年齢は夫32.3歳(全国夫31.1歳)、妻30.4歳(全国妻29.4歳)で、夫・妻とも全国で最も高い。(表2)

図8 婚姻件数の年次推移(東京都)

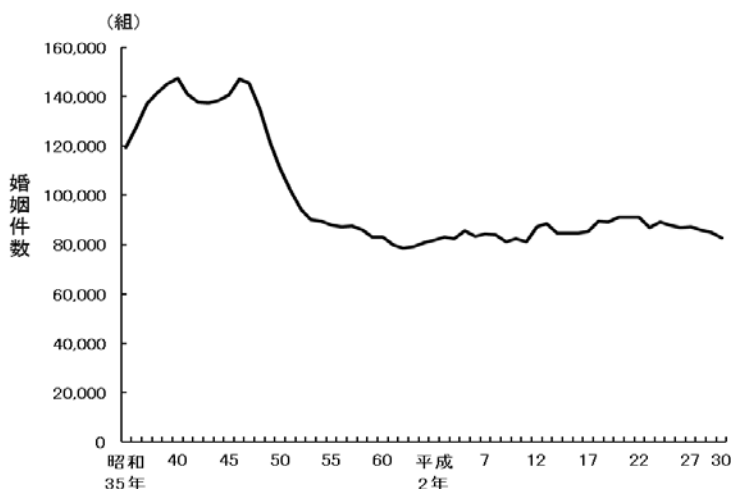


表2 平均初婚年齢、東京都と全国の比較

	平成29年		平成30年	
	夫	妻	夫	妻
全国	31.1	29.4	31.1	29.4
東京都	32.3	30.4	32.3	30.4

出典:「平成30年(2018)人口動態統計(確定数)」婚姻 第9-12表(厚生労働省)

6 離婚

離婚件数は減少

平成30年の離婚件数は22,706組で、前年の23,055組より349組(1.5%)減少した。

人口千人あたりの離婚数を表す「離婚率」は1.70で、前年の1.74より低下した。【年報第1表】

全国の離婚率は1.68で、東京都の方が高い値になっている。

地域別にみると、島部は1.73で東京都全体(1.70)より高く、市部は1.50、郡部は1.43で東京都全体(1.70)より低くなっており、区部は同率である。

【年報第4表】

図9 離婚件数の年次推移(東京都)

